

藤永田造船所について

帝国海軍駆逐艦の建造来歴を見ていると、海軍工廠、三菱重工、川崎重工、浦賀船渠のほかに、「藤永田造船所」という名前をよく見る。戦後、海上自衛隊になってからも駆潜艇「かり」、「たか」(29PC)、「やまどり」(33PC)、「かささぎ」(34PC)、「くまたか」(37PC)を建造した実績がある。ところがそれ以降海上自衛隊艦艇の建造実績が全くない。それどころか「藤永田造船所」という名前さえ全く聞こえてこない。

一体どうなっているのだろうかと思い、調べてみたところ、意外にも日本最古の造船所として、かつては隆盛していたことが判明した。

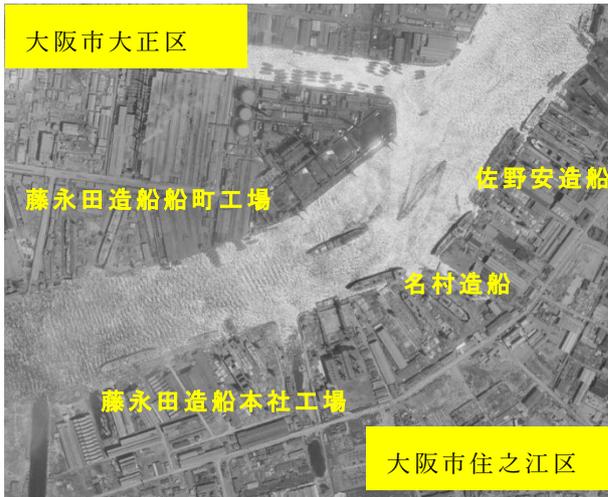
藤永田造船所は、元禄2(1689)年、大坂堂島船大工町に船小屋「兵庫屋」として創業し、木造船の建造を手掛けたところから始まる。明治以降は木造外輪汽船の建造に取り組むなど、近代的造船所として発展した。また、造船以外にも鉄道車両等の製造も行うようになった。「藤永田造船所」という社名にしたのは明治7(1874)年のことである。大正6(1917)年、木津川河口で現在の大阪市大正区と住之江区付近に本格的な工場を建設、大正8(1919)年に帝国海軍の指定工場になってからは駆逐艦の建造を手掛けるようになり、大正10(1921)年には自社初の駆逐艦「藤」を竣工させた。当時の従業員数は約1900名であり、大阪では大阪陸軍造兵廠、住友金属工業に次ぐ三番目の従業員規模であった。

以後、終戦まで海軍艦艇59隻を建造した。特に駆逐艦の建造実績が多く(46隻)、駆逐艦建造においては浦賀船渠とともに「西の藤永田、東の浦賀」と呼ばれていたという。

戦後は漁船建造から再出発し、貨物船建造、LPG船などの建造を行った。冒頭に紹介した海上自衛隊創設期の駆潜艇も建造した。

しかしながら、昭和42(1967)年10月、企業競争力強化のため、同じ銀行融資系列の三井造船に吸収合併され「三井造船藤永田工場」となった。その後1980年代になると、造船不況のあおりを受け、1980年代半ばに陸上機械製造設備の一部を除き、商業用地として売却されてしまった。同じころ、横浜のみなとみらい地区にあった三菱重工横浜造船所も閉鎖され、磯子区と金沢区に移転した。ランドマークタワーのドックヤードガーデンと帆船日本丸が係留されているドックはその名残である。

かつて藤永田造船があったところには、平成の終わりまで三井造船の機械工場や倉庫、自動車教習所があり、筆者が平成25年に訪れたときは、造船所の面影は感じられなかった。三井造船の看板の下にひっそりと建つ「藤永田造船所跡地」と書いてある石碑だけがそれを物語っていた。令和に入り、三井造船の倉庫も土地ごと売却され、石碑は移設されたようである。



昭和39年撮影航空写真（国土地理院）



平成25年筆者撮影